



秋風に 靡(なび)く川びの にこ草の にこやかにしも 思ほゆるかも

10月の万葉集 巻20-4309 大伴家持
秋風に靡く 川辺の にこ草ではないが
もう秋風が吹きはじめたかと思うと にこにこ
嬉しさがこみあげてくる



読書の秋を楽しみましょう!

10月に入り、朝夕はようやく涼しさが感じられるようで、あたりを見渡せば、黄金色に色づいた稲穂が秋風になびき、早く刈ってほしいと言っているようです。また、コオロギやマツムシなど、秋の虫の鳴き声が耳に心地よく、広陵町の木であるキンモクセイやギンモクセイの花の香りが秋風によって爽やかに漂う、好季節を迎えました。

学校園では、運動会・体育大会が実施される時期となりました。広陵中学校・真美ヶ丘中学校は4日に体育大会を迎え、生徒たちは持てる力を存分に発揮し、クラスの絆を大切にしながら担任の先生方の声援に応えて、クラスのために全力を出し切っていました。また、7日(土)には、東・北・真美ヶ丘第二小学校で開催され、子どもたち一人一人、すばらしいパフォーマンスを見せていました。14日(土)には、東・真美一・真美二の幼稚園・北かぐやこも園が、15日(日)には、畿央大附属広陵こども園が、そして28日(土)には、西・真美ヶ丘第一小学校が開催の日を迎えます。子どもたち一人一人がこれまでに練習等で培ってきた力を自分自身のため、チームのために精一杯発揮してほしいと思うとともに一途にがんばっている姿をぜひ見てあげてほしいと思います。



ところで、今はもう秋真っ盛りで、「〇〇の秋」と言われ、〇〇にあてはまる言葉がクイズにされることがよくあります。皆さんはどのような秋を連想されますか。収穫の秋、実りの秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋、行楽の秋など数多くの秋が連想されると思います。これらの秋の中で私はあえて「読書の秋」を考えたいと思います。これまで、この教育委員会だよりで何度か読書について取り上げましたが、再度、読書について書きたいと思います。

「読書の秋」という言葉は、8世紀頃、唐王朝の時代に活躍した中国の韓愈(かんゆ)という詩人が、自著「符読書城南詩」のなか記した「時秋積雨霽 新涼入郊墟 燈火稍可親 簡編可卷舒」(秋になって長雨が終わり空も晴れ、涼しさが丘陵にもきている。ようやく夜の灯に親しんで、書物を広げられる)という詩に由来するといわれています。



この詩を明治の文豪、夏目漱石が1908年に発表した小説『三四郎』の中で引用したことから、秋は読書をするイメージが一気に日本中に広まって、「読書の秋」という言葉が定着した、という説が有力らしいです。

読書による効果はこれまでも書いてきましたが、下にいくつかの例を示します。

1 脳を活性化する

2年前の11月号で取り上げましたが、東北大学の川島隆太教授によると、本の黙読により、視覚情報を処理する「後頭葉」や思考・創造性に関わる「前頭前野」など、脳のさまざまな部位が活性化するようです。しかも音読では、学習効果を2~3割向上させることが期待できるそうです。音読は「発声する」「自分の声を聞く」という過程が加わるため、黙読より複雑な情報処理が必要になって、脳をまんべんなく刺激できると考えられています。そして音読の速度が速ければ速いほど、脳はいっそう激しく活性化するらしいです。脳が活性化されると、勉強だけでなく仕事でもさまざまなメリットが生じるとともにコミュニケーション能力の向上も期待できるようです。



2 創造力が磨かれる

脳生理学者の酒井邦嘉氏によると、読書をするとき脳は特別な使い方をされるため、創造力が鍛えられるそうです。一つの例として、ノーベル文学賞を受賞した川端康成の「雪国」の冒頭、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。」という文章を読むと、「いったいどんな雪国だろうか」「夜の底が白いつて、どんな風景なの」「信号所ってどんなところ?」と一つ一つの文章で想像してしまいます。文字情報から想像を膨らませたり考えたりすることは、創造力の鍛錬になるそうです。創造力は、新しい企画を提案したり問題の解決方法をひねり出したりするなど、仕事・学習・日常のあらゆる場面で必要な能力であり、創造力がないと、与えられた情報や指示以上のものを生み出せない人になってしまいます。



3 読解力が高まる

読書は、読解力を高めます。読解力はこれからの時代、ますます重要になるスキルだそうです。読解力は、AI(人工知能)にとって習得が困難なため、読解力の高い人はAIに仕事を奪われないだろうと考えられています。読解力のない人がやっているような仕事は、20年後にはAIに代替されるだろうということです。とにかく、読書によって読解力を高めることが大切です。



読書による効果はまだたくさんあると思いますが、とりあえずは、秋の夜長をテレビやスマホに代えて、趣味などの自身にとって読みやすい本から、徐々に様々なジャンルの本に移行していけばいいのではと思います。

教育委員会の取組

第2回社会教育委員会議を開催しました！

9月30日(土)、広陵中央公民館において、第2回社会教育委員会議を開催しました。社会教育委員の皆さん全員参加の下、議事は主に第62回広陵町文化祭について及び世代間交流事業についてでした。文化祭については、事務局から、日程・開会式・公民館活動発表会・文化展覧会等の提案説明があり、すべて承認されました。その中で、今年度はポスターデザインを町内2中学校の2年生を対象に募集し、125点の応募の中から採用作品1点と入選作品10点を選考しました。特に今回はGIGAスクール構想で貸与しているChomebook内のツールを用いてデジタル画として作成した作品をデータで提出してもらう新たな取組となりました。

世代間交流事業については、コロナ禍の前までは20年以上続いていた「ふれあいパークゴルフ」を広陵パークゴルフ場で開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催ができなくなり、それに替わるものとして、第1回社会教育委員会以降、数回話し合っていました。その結果、世代を超えた交流を図りながら自分たちの町を改めて知る機会を得て、地域への誇りと愛着を持ってもらうことを目的に、今回は箸尾地区の教行寺や箸尾城址など史蹟を中心に、小学生からシニア世代までの1チーム6人ぐらいのグループを編成して、「スタンプラリー形式のウォークラリー」を実施することとしています。

この事業は、12月17日(日)10時から12時の間ではしお元気村をスタート・ゴール地点に設定して実施されます。詳細は町の広報等でお知らせしますので、皆さん、家族そろってぜひご参加ください。

その後、委員の皆さんには、それぞれのポイントにおけるスタンプラリー等の対応についてなど詳細な事項について熱心に議論していただきました。



新規採用の先生方の研究授業を実施！

今年度、広陵町に配属となった新規採用の先生方は5人で、広陵町教育委員会として、その先生方を対象に初任者研修をさせていただきました。5月12日(金)に、私が「教員の仕事は『子どものために』を合い言葉に」との内容の講義を、7月21日(金)には、巢山古墳や牧野古墳、百済寺等、広陵町内の文化財現地研修と児童虐待や生徒指導、特別支援教育等の講義をそれぞれの所管からさせていただきました。

そして、初任の先生方の授業研究として、9月22日(金)には、広陵中学校で1学年の数学{方程式}の授業を、10月5日(木)

には、真美ヶ丘第一小学校で2学年の算数(かけ算)の授業をしていただきました。

中学校の授業では、「方程式を使って、速さに関する問題を解けるようになる」ことを目標に授業が進められました。授業者の先生は参観者もたくさんおられたので、はじめはかなり緊張されていましたが、授業が進むに従って生徒との一体感も生まれていました。主体的で対話的な学びにはまだ至っていませんでしたが、子どもたちへの思いは伝わっていました。方程式を作る方法として、何をX(エックス)と表すかということが本当に難しいと思いました。



小学校の授業では、「かけ算の場面を式や図で表し、答えを累加で求められることを理解する」ことを目標に授業が進められました。授業のめあては「こたえのもともめ方を考えよう」で、その問題は、「かしわもちが1パックに3こずつはいっています。5パックでは、ぜんぶで何こありますか」でした。



主体的な学びである一人で考えることとして、考えは一つではなく、いくつでも考えること、考えも式だけでなく図や絵、ことばなども使って考えることなど先生からの指示で子どもたちは真剣に考えていました。また、対話的な学びであるグループで考えを共有する場面では、自分が考えたことを交流し合うことでいくつもの考えがあること、自分の考えが正しかったことなど互いの思考の深まりが見られました。

それぞれの授業の後には研究協議が行われ、授業者からは、今回の授業で大事にしたかったことや授業におけるいくつかの反省点が話され、参観者からは良かったことやもう少しうすれば良かったのではといった改善点の指摘がありました。

真美ヶ丘中学校から

いじめ防止教室を開催しました！

9月4日(月)の5・6時間目、1年生を対象に「いじめ防止教室」を開催しました。講師には、広陵町出身の弁護士の方ともう1人、合わせて2人の弁護士の方に来ていただき、各クラスでお話をいただきました。

弁護士とは?、人権とは?、「いじめ」とは?、様々な話をしてくださいました。特に「いじめ」について、実際にあった話をもとに、決して許されることではないことが弁護士の先生方のお話から伝わってきました。

最後に、「いじめ」に出会ったとき、自分ならどうするのかを考えて授業が終了しました。生徒たちは全員真剣な表情で話を聞き、一生懸命考えていました。

